

嶋上遺跡群 29

上
郡

2005

高槻市教育委員会

嶋上遺跡群 29

はしがき

平成16年度も、市内各所におきまして個人住宅の建設や史跡整備等に先立ち、埋蔵文化財の調査を実施してきました。

鷲上郡衙跡等におきましては個人住宅の建設に関わる小規模な調査を実施していますが、各遺跡の具体的な内容や広がりを知るうえで基礎的な資料が蓄積されています。とくに、芥川廃寺周辺では瓦類等も出土し、古代の郡衙と寺院の関係を知る手がかりを得ることができました。

史跡今城塚古墳では、市民の歴史学習や憩いの場となることを目指して史跡整備工事が今年度から開始されました。これに関わって後円部上面の遺存状況などを知るために第8次規模確認調査を実施しました。

また、史跡鶴山古墳におきましても、くびれ部と後円部の形状や規模を把握するために第3次規模確認調査を実施したところ、前方部・後円部とも二段築成であることが確定しました。今回、明らかになった古墳各部の調査結果は平面形や立面形を復元し、鶴山古墳の保存と公開にむけての基礎的な資料となるものです。

最後に、本書をまとめるにあたり、ご教示やご協力いただいた関係機関をはじめ、多くの方々に心から感謝申し上げます。

平成17年3月31日

高槻市教育委員会 文化財課

課長 竹下 守雄

例　　言

1. 本書は、高槻市教育委員会が平成16年度国庫補助事業として計画、実施した高槻市所在の史跡・島上郡衙跡附寺跡周辺部及び市内遺跡の発掘調査事業（総額1,800,000円）の概要報告書である。
2. 事業は、高槻市教育委員会の直営事業として実施し、大阪府教育委員会の助力を得て、平成16年5月10日に着手し、平成17年3月31日に終了した。
3. 調査は、高槻市教育委員会文化財課埋蔵文化財調査センターがおこなった。本書の執筆・図面作成・製図は、橋本久和、鎌ヶ江一朗、宮崎康雄、高橋公一、西村恵祥がおこない、分担は文末に記した。遺構・遺物の写真撮影は清水良真が担当した。整理作業については以下の各氏から援助をうけた。厚く感謝する。

白銀良子、西尾和江、松下智子、鶴崎代、松本信子、池田理美

(順不同・敬称略)

4. 調査の実施にあたり、以下に掲げる土地所有者の方々をはじめ、関係機関各位のご協力をいただいた。ここに記して感謝いたします。

福尾利行、井上富美子、荒木淳一、島嶋潤一、郡家水利組合、素盞嗚尊神社、山本清、中川茂一、美内廉成、さち江、久世褒弘・純子、樋村幸二、辻本民藏、西本純子、川上清和、青山伸行、山本豊

(順不同・敬称略)

日 次

I 鳥上郡衙跡	1
II 鳥神社跡	8
III 中城遺跡	9
IV 郡家本町遺跡	10
V 郡家今城遺跡	11
VI 宮之川原遺跡	13
VII 高櫻城跡	13
VIII 天神山遺跡	14
IX 關鶴山古墳規模確認調査	15
X 今城塚古墳規模確認調査	16

No.	遺跡名(地区)	調査地	面積(m ²)	申請者
1	鳥上郡衙跡(48-J)	川西町一丁目953-19	59.73	福尾利行
2	〃(38-P)	清福寺町919-15	44.06	井上富美子
3	〃(68-A)	川西町一丁目1093-7	110.19	荒木淳一
4	〃(68-A)	川西町一丁目1093-8	110.19	高橋潤一
5	〃(35-B・C)	郡家新町1138	24.25	郡家水利組合
6	〃(35-C・D)	郡家新町1138	69.225	善鑑鳴尊神社
7	〃(28-N)	清福寺町836-1の一部	65.37	山本清
8	鷦神社跡(2004-1)	赤大路町11-24	86.25	中川茂一
9	〃(2004-2)	赤人路町11-25	86.25	箕内康成・さち江
10	〃(2004-3)	赤人路町11-23	86.25	久世泰弘・純子
11	中城遺跡(2004-1)	昭和台町一丁目107	196.42	植村幸二
12	郡家本町遺跡(2004-1)	郡家本町975-1他	214.10	辻本民藏
13	郡家今城遺跡(2004-1)	今城町17-3の一部	51.03	西本純子
14	宮之川原遺跡(2004-1)	宮之川原元町877-1	106.51	川上清和
15	高櫻城跡(2004-1)	野見町424-16-17	129.52	青山伸行
16	大神山遺跡(2004-1)	天神町二丁目973-13	90.48	山本豊

平成16年度 市内遺跡調査一覧

I. 島上郡衙跡

1. 島上郡衙跡（48-J地区）の調査

調査地は高槻市川西町一丁目953-19番地にあたり、小字名は「川西北浦」である。現状は宅地である。当該調査地周辺では古代山陽道路等が確認されている。

調査は個人住宅建設に伴い工事立会を実施したもので、盛土等を除去した後、土層の観察と遺構の確認を行った。

層序は盛土(0.4m~0.6m)、暗灰色粘土(0.15m)、暗黄灰色礫土[地山]である。地山面で精査をおこなったが、遺構・遺物は検出されなかつた。
(木曾)



図1 島上郡衙跡調査位置図(1)

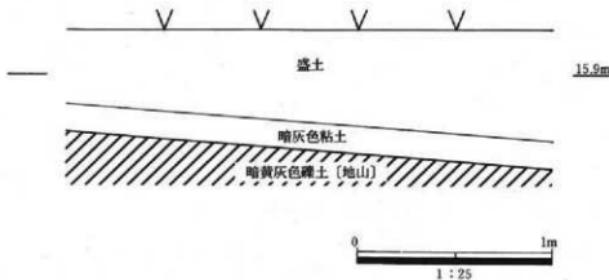


図2 島上郡衙跡(48-J地区) 土層模式図

2. 鳴上郡衙跡（38-P 地区）の調査

調査地は高槻市清福寺町919-15番地にあたり、小字名は「川西北浦」である。現状は宅地である。当該地は市域を南北に貫く芥川西岸の段丘上にあり、周辺では古墳時代の竪穴式住居跡や土器棺等が検出されている。

調査は個人住宅建設に伴い工事立会を実施したもので、盛土等を除去した後、土層の観察と遺構の確認を行った。

層序は盛土(0.7m)、耕作土(0.2m)灰青色土(0.4m)、黄灰色粘土[地山]である。地山面で精壳をおこなったが、遺構・遺物は検出されなかった。
(木曾)

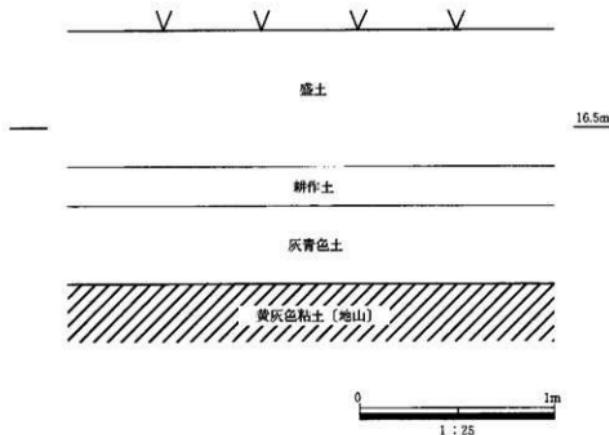


図3 鳴上郡衙跡（38-P 地区）土層模式図

3. 鳴上郡衙跡（68-A地区）の調査

調査地は高槻市川西町一丁目1093-7番地にあたり、小字名は「千原樋」である。現状は宅地である。個人住宅建設に伴い工事立会を実施したものである。

調査は盛土等を除去した後、土層の観察と遺構の確認を行った。層序は盛土(1.2m)、暗灰色土(0.3m)、黄灰色粘土[地山]である。地山面で精査をおこなったが、遺構・遺物は検出されなかった。
(木曾)



図4 鳴上郡衙跡調査位置図（2）

4. 鳴上郡衙跡（68-A地区）の調査

調査地は高槻市川西町一丁目1093-8番地にあたり、小字名は「千原樋」である。現状は宅地である。個人住宅建設に伴い工事立会を実施したものである。

調査は盛土等を除去した後、土層の観察と遺構の確認を行った。層序は盛土(1.2m)、暗灰色土(0.3m)、黄灰色粘土[地山]である。地山面で精査をおこなったが、遺構・遺物は検出されなかった。
(木曾)

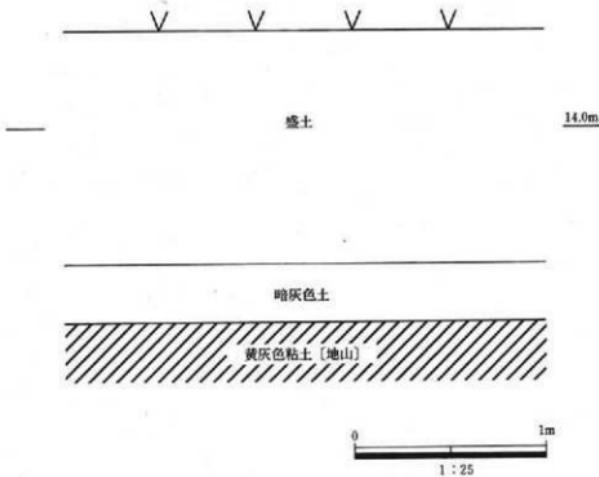


図5 鳴上郡衙跡（68-A地区）土層模式図

5. 鳴上郡衙跡（35-B・C地区）の調査

調査地は高槻市郡家新町1138番地にあたり、小字名は「高津」である。当該地は史跡指定地中央部の素盞鳴尊神社東側にあたり、現状は農業用水路である。水路改修工事に伴う現状変更に先立ち発掘調査を実施した。

調査は古くなった農業用水路のヒューム管を除去した後、土層の観察と遺構の確認を行った。計画水路は東側に流れるように設計され、西端の土層①では盛土(0.35m)、黒色腐植土(0.35m)、灰褐色土〔砂礫まじり・地山〕である。西端部で精査を行ったが遺構は確認されなかった。水路中央部の土層②では黒色腐植土(0.5m)の下部に史跡周辺部でみられる遺物包含層に相当する暗褐色土が堆積している。水路東端の土層③・④も同様の層序で、東側に向けて地山が下降している。計画では水路中央部から東側では暗褐色土上面が改修後の水路底部に相当するため、暗褐色土の掘削は実施しなかった。このため調査区全体で遺構は確認されず、遺物も検出されなかった。

(橋本)

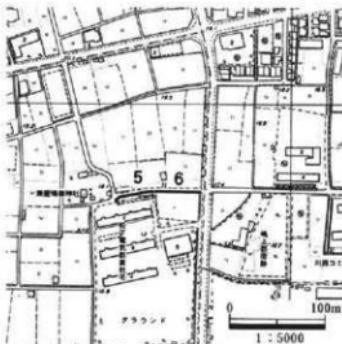


図6 鳴上郡衙跡調査位置図（3）

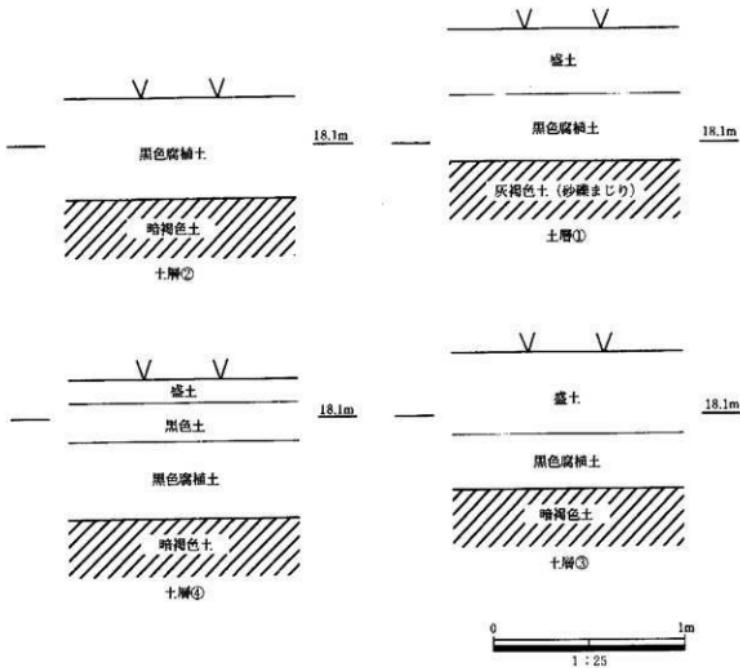


図7 鶴上郡衙跡（35-B・C地区）土層模式図

6. 鳥上郡衙跡（35-C・D地区）の調査

調査地は高槻市郡家新町1138番地にあたり、小字名は「高津」である。当該地は史跡指定地中央部の素盞鳴尊神社東側の神社参道である。参道南側法面の崩壊が著しいため擁壁設置工事が計画され、現状変更に先立ち発掘調査を実施した。

調査は擁壁設置部に幅1mの調査坑を設定し、土層の観察と遺構の確認を行った。基本的な層序は西端の土層①から東端の土層④まで、盛土(0.2~0.3m)、黄灰色土(0.2~0.3m)、暗褐色土[遺物包含層]である。計画された擁壁底部まで暗褐色土を慎重に人力掘削したところ瓦の破片等が検出された。暗褐色土は0.3m以上堆積しており遺構は検出されなかった。（橋本）

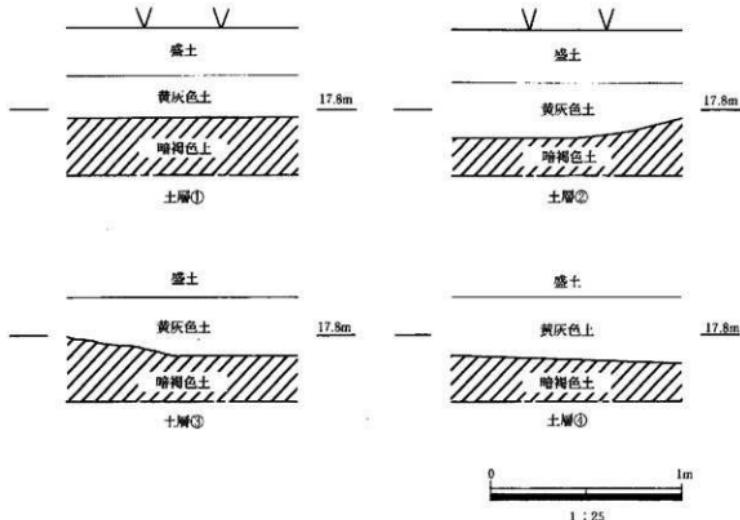


図8 鳥上郡衙跡（35-C・D地区）土層模式図

7. 鳴上郡衙跡（28-N地区）の調査

調査地は高槻市清福寺町836-1番地の一部にあたり、小字名は「清福ノ内」である。現状は田である。このたび、個人住宅建設に伴い発掘調査を実施したものである。当該地は史跡指定地東北側にあたり、これまでの調査では郡衙成立以前の弥生時代から郡衙衰退以降の中世までの多量の遺構・遺物が検出されている。

調査は届出地南西部に調査区を設定し、十層の観察と遺構の確認を行った。基本的な層序は盛土(0.6m)、灰色砂礫(0.1m)、耕作土(0.1m)、灰色粘土(0.2m)、暗褐色土[0.3m]、黃褐色土[地山]である。地山面で精査を行なったが遺構は確認されなかった。また、暗褐色土が遺物包含層に相当するが遺物も検出されなかった。
(橋本)

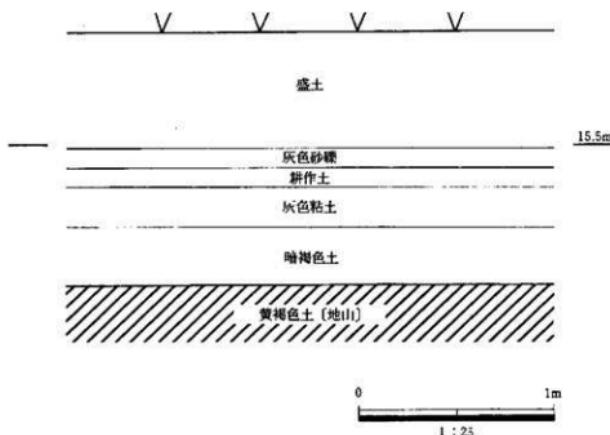


図9 鳴上郡衙跡（28-N地区）土層模式図

II. 鴨神社跡

8. 鴨神社跡（2004-1地区）の調査

調査地は高槻市赤大路町11-24番地にあたり、小字名は「鴨林」である。現状は宅地である。このたび、個人住宅建設に伴い工事立会を実施したものである。

当該地は鴨神社の西側にあたり、参道をはさんだ東側の調査地（2000-A）では、奈良時代から平安時代の構造・溝・土坑等が検出されている。

調査は盛土等を除去した後、土層の観察と遺構の確認を行った。層序は盛土（0.65m）、暗黄褐色粘土[地山]である。地山面で精査をおこなったが、遺構・遺物は検出されなかった。

（木曾）



図10 鴨神社跡調査位置図

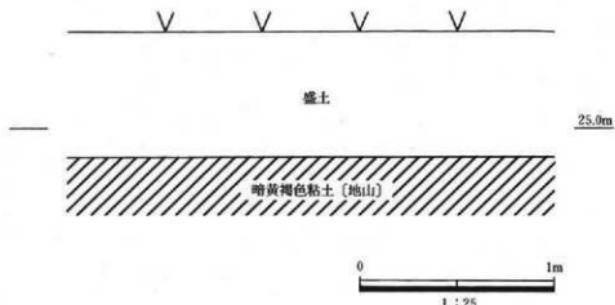


図11 鴨神社跡（2004-1）土層模式図

9. 鴨神社跡（2004-2地区）の調査

調査地は高槻市赤大路町11-25番地にあたり、小字名は「鴨林」である。現状は宅地である。このたび、個人住宅建設に伴い工事立会を実施したものである。

当該地も鴨神社参道の西側にあたり、東側の調査地（2000-A）で検出された奈良時代から平安時代の遺構・遺物の拡がりについて、手がかりが得られるものと思われた。

調査は盛土等を除去した後、土層の観察と遺構の確認を行った。層序は盛土（0.6m）、暗黄褐色粘土[地山]である。地山面で精査をおこなったが、遺構・遺物は検出されなかった。（木曾）

10. 鴨神社跡（2004-3地区）の調査

調査地は高槻市赤大路町11-23番地にあたり、小字名は「鴨林」である。現状は宅地である。

このたび、個人住宅建設に伴い工事立会を実施したものである。

当該地も鴨神社参道の西側にある。工事立会いを実施することにより、東側の調査地(2000-A)で検出された奈良時代から平安時代の遺構・遺物の拡がりについて確認できるものと思われた。

調査は盛土等を除去した後、土層の観察と遺構の確認を行った。層序は盛土(0.7m)、暗黄褐色粘土[地山]である。地山面で精査をおこなったが、当該地でも遺構・遺物は検出されなかった。

(木曾)

III. 中城遺跡

11. 中城遺跡（2004-1地区）の調査

調査地は高槻市昭和台町一丁目107番地にあたり、小字名は「安房」である。現状は宅地である。このたび、個人住宅建設に伴い、事前に工事立会を実施したものである。

当該地は富田台地上に位置し、中城遺跡の中央部に相当するものとみられる。工事立会いを実施することにより、弥生時代の遺物包含層の拡がり等を確認できるものと思われた。

立会地の土層観察を行ったが、層序は盛土(0.4m)、暗褐色土(0.2m)、黄灰色粘土[地山]である。暗褐色土は周辺の調査等から遺物包含層

とみられるが、土器等は検出されなかった。また、地山面で精査をおこなったが、遺構も検出されなかった。

(木曾)



図12 中城遺跡調査位置図

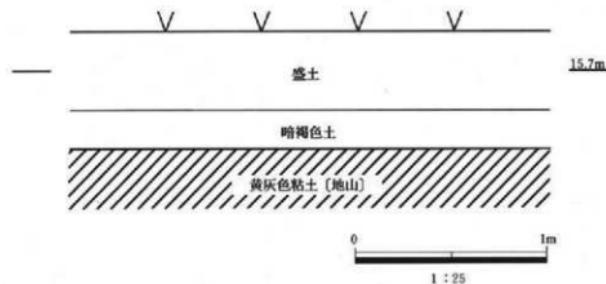


図13 中城遺跡（2004-1）土層模式図

IV. 郡家本町遺跡

12. 郡家本町遺跡（2004-1地区）の調査

調査地は高槻市郡家本町975-1番地他にあたり、小字名は「東垣内」である。現状は宅地である。このたび、個人住宅建設に伴い工事立会を実施したものである。

当該地は岬上郡衙跡北側に拡がる丘陵裾部に位置する。岬上郡衙の成立や衰退と深く関わる遺跡であり、周辺部では弥生時代後期から奈良・平安時代の遺構・遺物が検出されており、その拡がりについて確認できるものと思われた。

調査は盛土等を除去した後、土層の観察と遺構の確認を行った。層序は盛土(0.1m)、暗褐色土(0.2m)、黄灰褐色疊[地山]である。地山面で精査をおこなったが、遺構・遺物は検出されなかった。
(木曾)

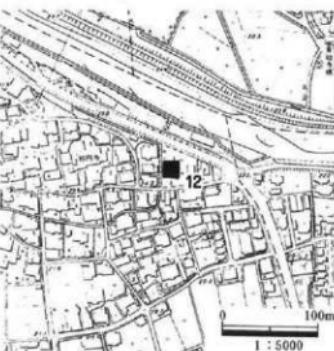


図14 郡家本町遺跡調査位置図

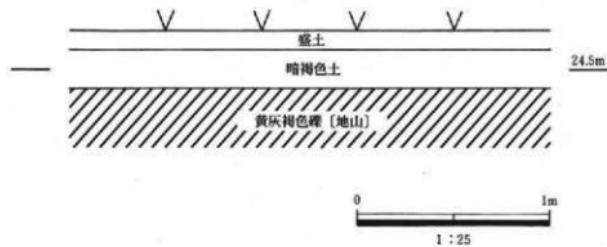


図15 郡家本町遺跡（2004-1）土層模式図

V. 郡家今城遺跡

13. 郡家今城遺跡（2004-1地区）の調査

調査地は高槻市今城町17-3番地にあたり、小字名は「鳥黒」である。現状は宅地である。このたび、個人住宅建設に伴い発掘調査を実施したものである。

当該地は府立三島高校南西部に位置し、周辺部では国府型ナイフ形石器などの旧石器時代の遺物をはじめ奈良時代から平安時代にかけての建物跡や井戸等が検出されている。遺跡東方の鷲上郡衙跡との緊密な関連が想定されるが、当該地北側の発掘調査では建物跡5棟をはじめ井戸、柵列等が検出されている。また、当該地西側では溝、土坑等が検出されている。いずれも奈良時代を中心とする遺構であり、今回も奈良・平安時代集落の拡がりを知ることができるものと思われた。

調査は届出地に長さ4m、幅2mの調査区を設定し、重機で盛土・耕作土を除去した後、人力による掘削を行い、遺構・遺物の検出に努めた。

層序は盛土(0.7m)、耕作土(0.2m)、灰色砂質土(0.2m)、褐色土(0.2m)、灰白色粘土[地山]である。地山面で精査をおこなったところ、遺構は検出されなかった。褐色土は周辺部の調査では奈良・平安時代の土器等を含む遺物包含層であるが、当調査区で遺物類の出土は認められなかった。

(木曾)



図16 郡家今城遺跡調査位置図

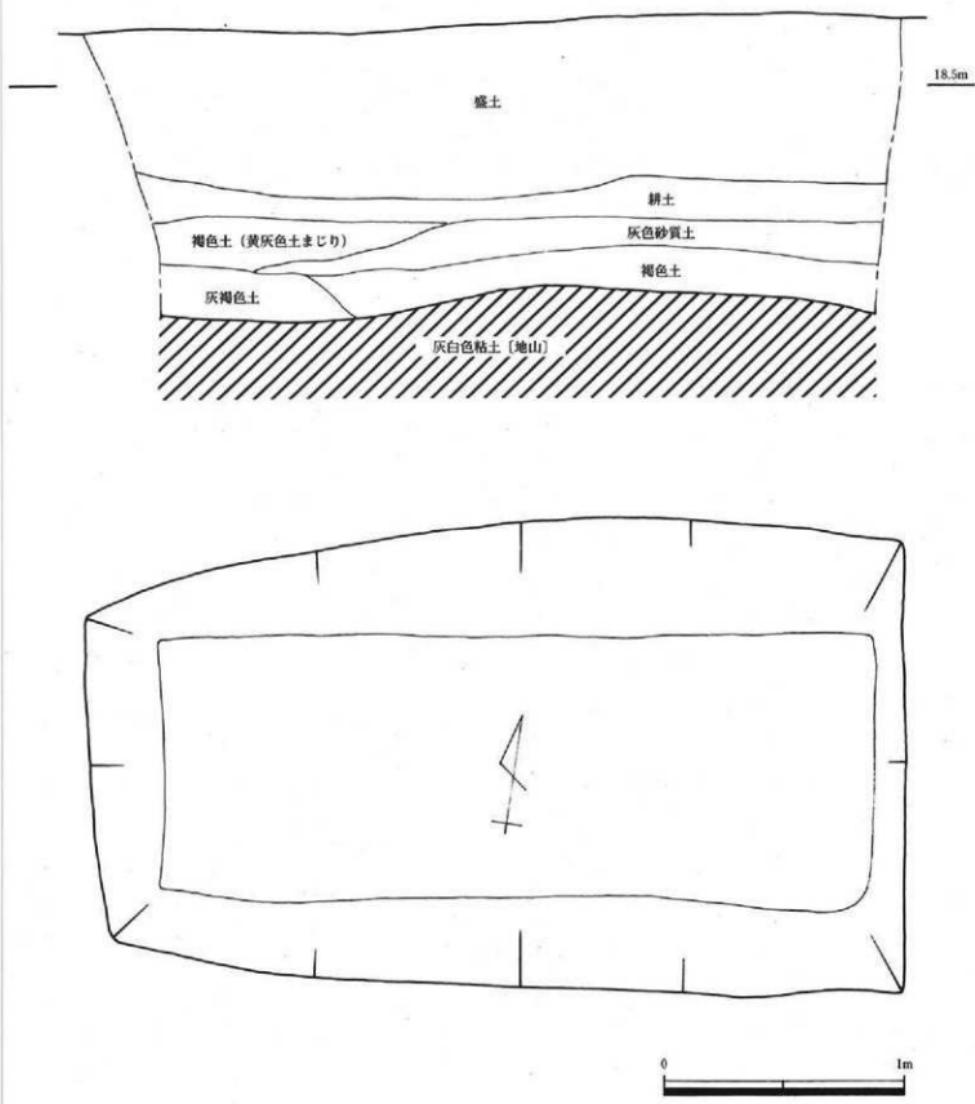


図17 郡家今城遺跡（2004-1）土層模式図

VII. 宮之川原遺跡

14. 宮之川原遺跡（2004-1地区）の調査

調査地は高槻市宮之川原元町877-1番地にあたり、小字名は「宮ノ市」である。現状は宅地である。このたび、個人住宅建設に伴い工事立会を実施したものである。

当該地は式内社神服神社の西北約100mに位置する。この周辺は古代服部郷の中心とみられ、周辺部では堅穴式住居跡をはじめ、弥生時代後期から奈良・平安時代の遺物も検出されており、その拡がりについて確認できるものと思われた。

調査は盛土等を除去した後、土層の観察と遺構の確認を行った。層序は盛土(0.6m)、黄灰色土(0.1m)、黄灰褐色粘土[地山]である。地山面で精査をおこなったが、遺構・遺物は検出されなかった。

(木曾)



図18 宮之川原遺跡調査位置図

VIII. 高槻城跡

15. 高槻城跡（2004-1地区）の調査

調査地は高槻市野見町424-16・17番地にあたり、小字名は「不明ノ門」である。当該地は高槻城の帶郭跡にあたり、現状は宅地である。このたび、個人住宅建設に伴い工事立会を実施したものである。

調査は盛土等を除去した後、土層の観察と遺構の確認を行った。層序は盛土(1.2m)、青灰色粘質土である。この青灰色粘質土は廃城時の埋土とみられるが、湧水が激しく作業が困難となり遺構・遺物は検出されなかった。

(木曾)



図19 高槻城跡調査位置図

VIII. 天神山遺跡

16. 天神山遺跡（2004-1地区）の調査

調査地は高槻市天神町二丁目973-13番地にあたり、小字は「東山」である。当該地は天神山遺跡の西側尾根の東斜面に造成された開発地の一画で、現状は宅地である。

このたび、個人住宅建設工事が計画されたため、工事立会を実施した。層序は、褐色シルト（盛土・0.25m）、明黄褐色砂質シルト（地山）であり、遺物包含層及び遺構は検出されなかった。宅地造成の際に削平されたものと判断される。

（西村）



図20 天神山遺跡調査位置図

Ⅸ. 關鶴山古墳確認調査（第3次）

關鶴山古墳は、平成14年の調査によって未盗掘の埋葬施設2基をそなえた古墳時代前期(4世紀前半)の前方後円墳であることが明らかとなつたため、平成14年12月19日付けで国史跡の指定を受け、恒久的な保存が図られている。

高槻市では關鶴山古墳の保存整備に向けて、継続的に確認調査を実施している。今回の第3次調査は、東西の両くびれ部と後円部の東南側・東北側・西側に8ヶ所の調査区を設定して実施した(総面積225m²)。調査の結果、第1段目テラスを挟んで第1段(下段)・第2段(上段)の2段の斜面を検出し、前方部・後円部ともに2段築成であることが確定した。また各部の形状・規模や葺石など外表施設の状況が明らかになった。

【第1段】 後円部東側では斜面裾部の傾斜変換点を確認することにより、後円部東側裾ラインをとらえることができた。その半径は29~31.5mで、復元直径は60m前後とみられる。そして最も張り出した東部側が標高74.6mで地形的に最も低く、北側と南側に向かって上がっていきることが判明した。東くびれ部前方部側では基底石として一回り大きな石(直径約15cm)を使用していることから、古墳の裾部分が確定できるが、後円部側では東側に傾斜する斜面にやや粗い密度で分布する葺石が広がり、明確な基底石を認めることができない。

【第1段目テラス】 くびれ部では前方部側(南側)から後円部側(北側)へなだらかに上り、後円部でも北側に向かって上る傾向にあり、全体としてテラス上面は北側に高くなるスロープ状となる。幅はくびれ部で1.5~2.0mとやや広くなっているほかは、1.0~1.5mである。また西くびれ部と後円部西側では上面に直径10cm以下の礫を隙間なく敷き詰めている。

【第2段】 斜面には葺石が施され、第1段目テラスに接する後円部の最下段には一回り大きな石(直径25~30cm)を基底石として据える。前方部葺石は後円部に比べやや小ぶりの石(直径20cm以下)を使用している。また、各調査区で得られた位置関係を総合すると、後円部第2段斜面基底部の直径は約37mであること、さらに第2段基底部における東西両くびれ部の距離は約14.6mとなることが判明した。

【石敷造構】 後円部東南側の第1段裾部に接する平坦面において、裾部から約3mの範囲に直径約15cm以下の石を敷き詰めた石敷を検出した。南北方向の範囲は不明である。

【遺物】 墓丘が崩壊して堆積した流失土から土師器片が出土した。いずれも壺形土器の頸胴部で、内外面に赤色顔料を塗布するものもみられるが、全体の形に復元できるものは無い。

今回の調査で、關鶴山古墳の規模や形状についての基本的なデータを得ることができた。これらを将来の保存整備において十分反映できるよう、更なる検討を加えていく。(高橋)

X. 今城塚古墳規模確認調査（第8次）

今城塚古墳は6世紀前半に築造された淀川流域最大の前方後円墳である。昭和33年2月に史跡指定を受け、平成9年度から同古墳の保存整備に必要な各部分のデータを得るために、規模確認調査を実施している。今年度の調査は、平成16年度国庫補助事業として実施した第8次規模確認調査であり、後円部上面の遺存状況などを把握するために調査区を設定した。

調査の結果

後円部南東側では、墳丘内石積・排水溝・葺石・円筒埴輪列を検出した。墳丘内石積は、盛土内に人頭大の川原石を規則的に積み上げたもので、裾は緩やかな弧状を呈していた。現存高約1.3m、斜面角度は約40度をはかり、地震や地滑りに伴う崩落や陥没が各所に見られる。裾部から南東方向へのびる排水溝1は先端部が昨年度の第7次調査で検出した葺石裾の排水溝に続くことが判明した。

排水溝1は墳丘内石積の裾からテラスまで直線状にのびる石組みの溝である。墳丘内石積の取り付き部から墳丘斜面方向に約4.5mの間はほぼ水平にのびた後、排出口に向かって約20度の傾斜で下降する。流入部は底石と側石を据えて蓋石を横架した構造で、内部には砂や砂質粘土が詰まり、底石や側石には酸化鉄が付着していた。内法は幅約35cm、高さ約25cmをはかる。

あらたに確認した排水溝2は排水溝1の8.1m南側にあり、葺石周辺部分のみ遺存していた。排水口は葺石斜面に組み込まれた状態で、内法は幅17cm、高さ20cmをはかる。

葺石は人頭大の川原石を用い、検出長24mをはかる。裾はテラスに沿って緩やかに弧を描き、北半部は基底石をテラス上面覆い土の中に埋め込み、南半部はテラス面から積み上げていた。

墳丘上面では地滑りによって形成された落ち込みが数条あり、斜面や底で石材がまとまっていた。葺石や墳丘内石積とは異なり、花崗岩類を多く含むのが特徴的である。また、上面一帯からは淡路島より運ばれた流紋岩の円礫が多数出土した。

後円部西側に残る高まりについては、古墳本来のものか築城時の造作かを知るために断ち割ったところ、築造当初からの盛土であることが判明した。一部に上方からの地滑り跡をとどめるところから、墳頂はさらに高所にあったと考えられ、前方部よりも高くなる可能性がでてきた。

まとめ

後円部は現況で最も高い部分が当初の墳丘の一船であることが確認されたことから、本来の墳頂はさらに2m以上も高くなることが判明し、3段築成の可能性が考えられるようになった。

また、あらたな排水溝を確認したことにより、墳丘にはこれ以外にも排水溝が設定されていた可能性が高いと考えられる。上面の石材群は墳丘内石積まで及んでおらず、石の材質も異なることから、両者は異なった目的あるいは基準のもとで施工されたと判断される。墳丘内石積と排水溝、葺石が一体のものとして確認された例はなく、大規模古墳の墳丘構造をうかがい知る貴重な資料となった。

(宮崎)

抄 錄

フリガナ	シマガミイセキグン				
書名	鷲上遺跡群				
副書名					
巻次	29				
シリーズ名	高槻市文化財調査概要				
シリーズ番号	32				
編集者名	橋本久和 錦ヶ江一朗 宮崎康雄 高橋公一 木曾 広 清水良真 西村忠祥				
編集機関	高槻市教育委員会文化財課埋蔵文化財調査センター				
所在地	大阪府高槻市南平台五丁目21-1				
発行年月日	2005年3月				

フリガナ 所収遺跡名	シマガミイセキグン 鷲上郡衙跡 48-A地区				
フリガナ 所在地	村岡アカヤシ カニシヨウイツヨウ 大阪府高槻市川西町一丁目953-19				
コード	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
市町村	遺跡番号				
27207	39	34° 50' 51"	135° 36' 28"	20040830	立会
所収遺跡名	種別	時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
鷲上郡衙跡	官衙	奈良・平安			

フリガナ 所収遺跡名	シマガミイセキグンアト 鷲上郡衙跡 38-P地区				
フリガナ 所在地	村岡アカヤシ カニシヨウイツヨウ 大阪府高槻市川西町一丁目919-15				
コード	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
市町村	遺跡番号				
27207	39	34° 50' 54"	135° 36' 30"	20041125	立会
所収遺跡名	種別	時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
鷲上郡衙跡	官衙	奈良・平安			

フリガナ 所収遺跡名	シマガミイセキグンアト 鷲上郡衙跡 68-A地区				
フリガナ 所在地	村岡アカヤシ カニシヨウイツヨウ 大阪府高槻市川西町一丁目1093-7				
コード	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
市町村	遺跡番号				
27207	39	34° 50' 47"	135° 36' 27"	20041220	立会
所収遺跡名	種別	時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
鷲上郡衙跡	官衙	奈良・平安			

フリガナ 所収遺跡名	シマガミイセキグンアト 鷲上郡衙跡 68-A地区				
フリガナ 所在地	村岡アカヤシ カニシヨウイツヨウ 大阪府高槻市川西町一丁目1093-8				
コード	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
市町村	遺跡番号				
27207	39	34° 49' 47"	135° 36' 27"	20041220	立会
所収遺跡名	種別	時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
鷲上郡衙跡	官衙	奈良・平安			

フリガナ 所収遺跡名	シカガミランガアト 島上郡衙跡 35-B・C地区				
フリガナ 所在地	オホカタカワシ タンガシマツ 大阪府高槻市郡家新町1138				
コード	北緯 東経	調査期間	調査面積	調査原因	
市町村	遺跡番号				
27207	39	34° 50' 57" 135° 36' 15"	20041101 20041116	24 m ²	水路 改修工事
所収遺跡名	種別	時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
島上郡衙跡	官衙	奈良・平安			

フリガナ 所収遺跡名	シカガミランガアト 島上郡衙跡 35-C・D地区				
フリガナ 所在地	オホカタカワシ タンガシマツ 大阪府高槻市郡家新町1138				
コード	北緯 東経	調査期間	調査面積	調査原因	
市町村	遺跡番号				
27207	39	34° 50' 57" 135° 36' 15"	20041117 20041222	69 m ²	道路 改修工事
所収遺跡名	種別	時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
島上郡衙跡	官衙	奈良・平安		瓦	

フリガナ 所収遺跡名	シカガミランガアト 島上郡衙跡 28-N地区				
フリガナ 所在地	オホカタカワシ 大阪府高槻市836-1の一部				
コード	北緯 東経	調査期間	調査面積	調査原因	
市町村	遺跡番号				
27207	39	34° 50' 57" 135° 36' 29"	20050223 20050224	2 m ²	個人住宅 建設工事
所収遺跡名	種別	時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
島上郡衙跡	官衙	奈良・平安			

フリガナ 所収遺跡名	鴨神社跡 (2004-1)				
フリガナ 所在地	オホカタカワシ アカミヤ-ヨウ 大阪府高槻市赤大路町11-24				
コード	北緯 東経	調査期間	調査面積	調査原因	
市町村	遺跡番号				
27207	132	34° 50' 08" 135° 35' 13"	20040927	立会	個人住宅 建設工事
所収遺跡名	種別	時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
鴨神社	集落	奈良・平安			

フリガナ 所収遺跡名	鴨神社跡 (2004-2)				
フリガナ 所在地	オホカタカワシ アカミヤ-ヨウ 大阪府高槻市赤大路町11-25				
コード	北緯 東経	調査期間	調査面積	調査原因	
市町村	遺跡番号				
27207	132	34° 50' 08" 135° 35' 13"	20041020	立会	個人住宅 建設工事
所収遺跡名	種別	時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
鴨神社	集落	奈良・平安			

フリガナ 所収遺跡名	モジンジヤ 鷦神社跡 (2004-3)				
フリガナ 所在地	オホカタカツシヤモリヤコウ 大阪府高槻市赤人路町11-23				
コード 市町村 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
27207 132	34° 50' 08"	135° 36' 13"	20041021	立会	個人住宅 建設工事
所収遺跡名 鷦神社	種別 集落	時代 奈良・平安	主な遺構	主な遺物	特記事項

フリガナ 所収遺跡名	モケイヨウ 中城遺跡 (2004-1)				
フリガナ 所在地	オホカタカツシヨウクワイヤコウイチヨウ 大阪府高槻市昭和台町一丁目107				
コード 市町村 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
27207 47	34° 49' 32"	135° 35' 23"	20050214	立会	個人住宅 建設工事
所収遺跡名 中城	種別 集落	時代 中世	主な遺構	主な遺物	特記事項

フリガナ 所収遺跡名	ケンケホンマチ 郡家本町遺跡 (2004-1)				
フリガナ 所在地	オホカタカツシ ケンケホンマチ 大阪府高槻市郡家本町975-1他				
コード 市町村 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
27207 38	34° 51' 08"	135° 36' 15"	20041108	立会	個人住宅 建設工事
所収遺跡名 郡家本町	種別 集落	時代 弥生	主な遺構	主な遺物	特記事項

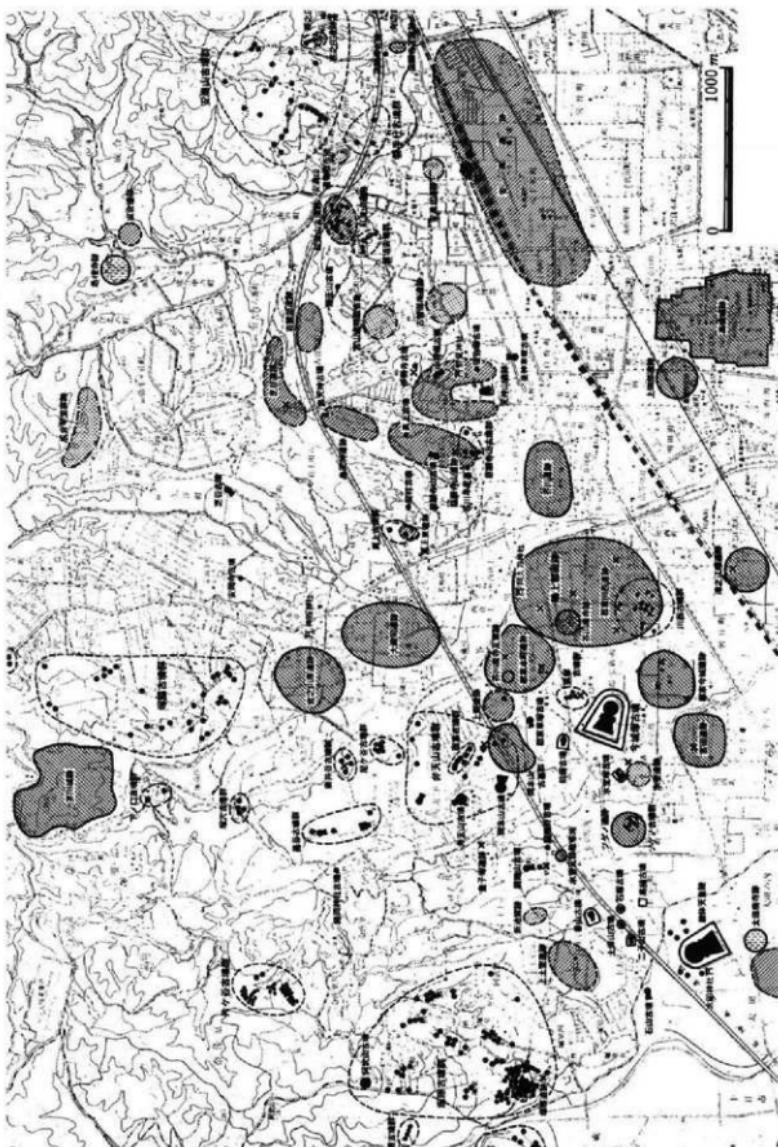
フリガナ 所収遺跡名	ケンケイシロ 郡家今城遺跡 (2004-1)				
フリガナ 所在地	オホカタカツシ イシロヨウ 大阪府高槻市今城町17-3の一部				
コード 市町村 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
27207 42	34° 50' 31"	135° 35' 57"	20041004	8 m ²	個人住宅 建設工事
所収遺跡名 郡家今城	種別 集落	時代 奈良・平安	主な遺構	主な遺物	特記事項

フリガナ 所収遺跡名	ミヤノカワ 宮之川原遺跡 (2004-1)				
フリガナ 所在地	オホカタカツシ ミヤノカワモチ 大阪府高槻市宮之川原元町877-1				
コード 市町村 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
27207 57	34° 51' 49"	135° 36' 06"	20041222	立会	個人住宅 建設工事
所収遺跡名 宮之川原	種別 集落	時代 弥生	主な遺構	主な遺物	特記事項

フリガナ 所収遺跡名	タカシマヨウ 高槻城跡 (2004-1)				
フリガナ 所 在 地	タカシマヨウ 大阪府高槻市野見町424-16-17				
コ ー ド	北 緯	東 經	調査期間	調査面積	調査原因
市町村	遺跡番号				
27207	85	34° 50' 29"	135° 37' 22"	20040730	立 会
所収遺跡名	種 別	時 代	主 な 遺 構	主 な 遺 物	特記事項
高槻城	城 跡	中世・近世			

フリガナ 所収遺跡名	テンジンヤマ 天神山遺跡 (2004-1)				
フリガナ 所 在 地	タカシマヨウ テンジンヤマ 大阪府高槻市天神町二丁目973-13				
コ ー ド	北 緯	東 經	調査期間	調査面積	調査原因
市町村	遺跡番号				
27207	70	34° 51' 12"	135° 37' 07"	20041115	立 会
所収遺跡名	種 別	時 代	主 な 遺 構	主 な 遺 物	特記事項
天神山	集 落	弥 生			

図 版

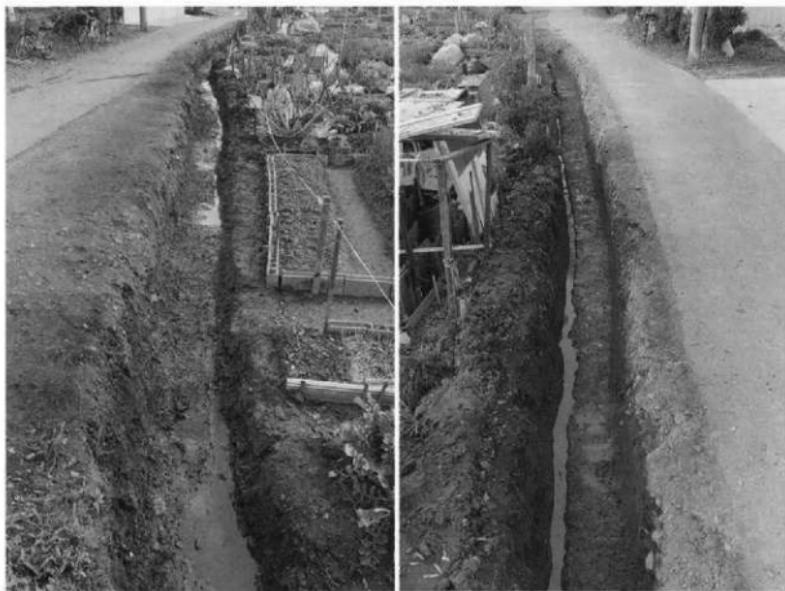


鷲上郡衙跡とその周辺



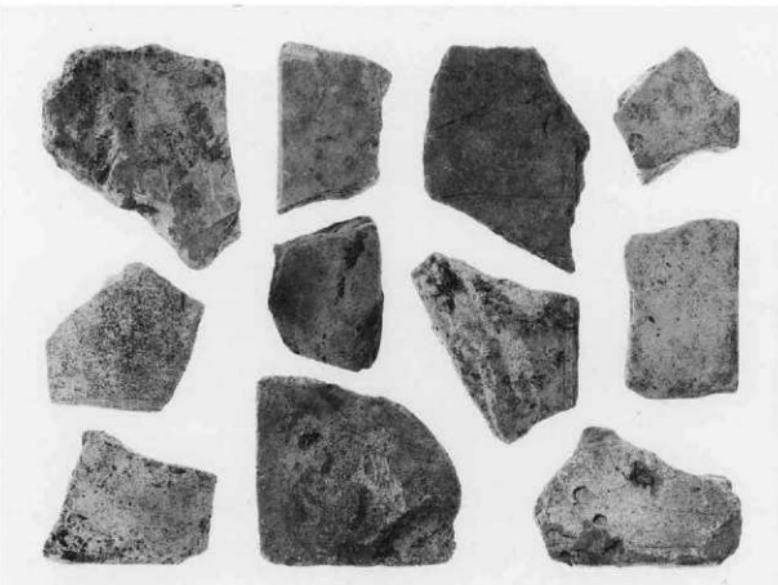
a. 鶴上郡衙跡（35-B・C地区） 全景 西側から

b. 東側から

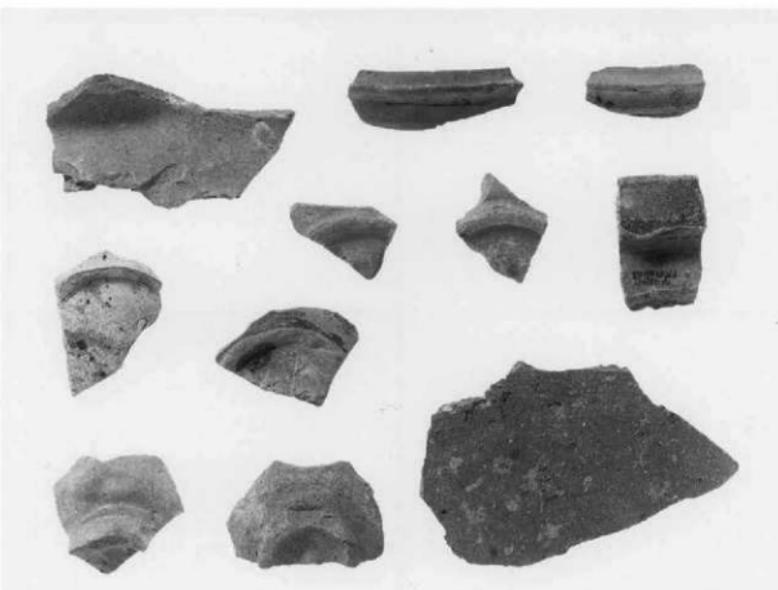


c. 鶴上郡衙跡（35-C・D地区） 全景 西側から

d. 東側から



a. 鷺上郡衙跡（35-C・D地区）出土遺物



b. 鷺上郡衙跡（35-C・D地区）出土遺物



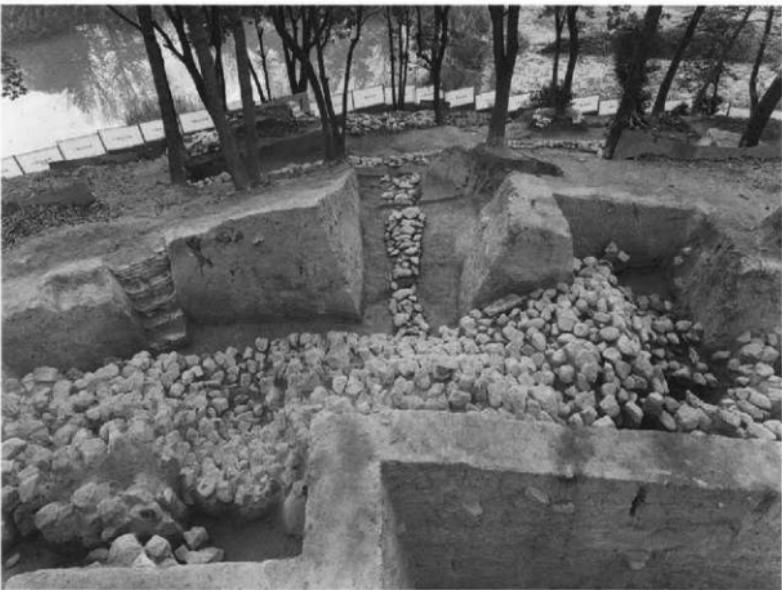
a. 開鶴山古墳 東くびれ部（南側から）



b. 開鶴山古墳 後円部西側第1段目テラス・第2段斜面（北西側から）



a. 今城塚古墳 芝石・排水溝（東側から）



b. 今城塚古墳 墳丘内石積・排水溝（北西側から）

高槻市文化財調査概要 32

嶋上遺跡群 29

平成 17 年 3 月 31 日

発 行 高 槻 市 教 育 委 員 会
文化財課 埋蔵文化財調査センター
高槻市南平台五丁目 21 番 1 号

印 刷 株式会社 邦 文 社
大阪市東淀川区大隅 1 丁目 4 番 9 号